

平成20年度

病虫害発生予察特殊報(第3号)

平成21年3月26日
神奈川県農業技術センター所長

病虫害名：オリーブアナアキゾウムシ
Dyscerus perforatus (Roelofs)

作物名：オリーブ

1 発生経過

- 平成20年10月下旬に農業技術センター足柄地区事務所普及指導課より、県西部の植木ほ場で栽培されているオリーブが枯死しているとの情報があり、その被害株が病虫害防除部に持ち込まれた。
- 現地調査を行ったところ、約0.5aに植栽されているオリーブの苗木（平成19年春挿し木、同10月定植）全てに地際部の加害が認められ、約70%の株が抜かれていた。また地際部に寄生していた大型のゾウムシと、木屑が排出されている加害部位内から幼虫が採取された。
- 成虫の形態などより、オリーブアナアキゾウムシによる加害であることが確認された。
- 聞き取り調査では、平成20年春から徐々に葉先の色が悪化し、枯死する症状が見られた。
- 本種は既に神奈川県内で発生が確認されているゾウムシであるが、経済栽培されているオリーブへの被害を確認したのは今回が初めてである。

2 形態および生態

(1) 形態

成虫は口吻を除き体長12~15mm、全体暗褐色、口吻の長さは4mm内外で腹側にゆるく湾曲し、先端は扁平。翅鞘には粗大な点刻列が10本あり、間室は隆起する。体表には灰白~黄褐色の剛毛があり、特に密生した部分は淡色に見える。老熟幼虫は体長約15mm内外で、無脚、頭部は茶褐色、胴部は乳白色で深い皺が多い。蛹は裸蛹で乳白色、体長14mm内外。

(2) 生態

本州、四国、九州、八重山諸島及び中国に分布。成虫及び幼虫で越冬し、成虫は3月下旬から11月上旬頃まで活動する。日中にはオリーブの根元周辺の落葉、敷わら、雑草等の下で静止し、夜間に樹上で摂食、交尾、産卵する。地際部の樹皮に口吻で浅い孔をあけ、その中に1粒ずつ産卵し、その上を糞状物や樹皮の細片で覆う。産卵は4~10月の長期にわたって行われる。卵期は夏季では10日内外、幼虫期は2ヶ月内外で、5齢を経過し、樹皮下からしだいに幹の材部に食入し、蛹化する。成虫の寿命は3~4年で、生涯産卵数は平均200個程度になる。

3 被害及び寄主植物

幼虫がオリーブの幹の皮層と形成層を食害する。多数の幼虫が食入すると、若樹では枯死する。壮齡樹では、衰弱してしだいに着果しなくなる。幼虫の加害中は産卵孔から木屑を排出す

る。加害部は地際から40cm位に集中するが、地下部も加害されることがある。成虫は新芽、葉柄、樹皮を食害する。本来ネズミモチ、イボタノキ等モクセイ科木本を寄主としていた在来種であるが、日本にオリーブが導入されると、こちらを選好するため、最も重要な害虫となった。

4 防除対策

- (1) 樹の周辺を終年裸地状態にすると、成虫の定着数が顕著に減少する。
- (2) 薬剤による防除では、オリーブ及びオリーブ（葉）を対象に、スミチオン乳剤とバイオセーフがオリーブアナアキゾウムシに適用がある。



<被害部（木屑が排出されている）>



<被害部>



<幼虫>



<成虫>



<成虫>

神奈川県農業技術センター
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレフオンサービス0463-58-6612

<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/nosoken/boujo.asp>